

海外安全対策情報（令和3年 10月～12月）

1 社会・治安情勢

ベラルーシの情勢は、おおむね落ち着いていますが、2020年8月に実施された大統領選挙以降、数か月にわたって各地で抗議活動が行われました。抗議活動参加者と治安部隊の衝突により、多数の集会参加者等が拘束され、死傷者も発生しました。現在も散発的にインターネット等で抗議活動が呼びかけられており、治安当局の取締りが行われています。ベラルーシに滞在中の方は、常に報道等により最新情報の入手に努めるとともに、抗議活動が行われている場所や群衆が集まる場所には近づかない、外出時は旅券等身分証明書を所持するなど、十分注意してください。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（１）ベラルーシ共和国内務省が発表した犯罪統計によれば、2021年1月1日から12月31日までのベラルーシにおける犯罪総数は87,696件で、前年同期と比較し8.2%減少しています。主な犯罪の内訳は以下のとおりです。

ア 窃盗	25,369件（前年比7.2%減）
（うち住宅対象侵入窃盗）	7,178件（同8.1%減）
イ 公然窃盗	1,268件（同2.8%増）
ウ 恐喝	317件（同20.4%減）
エ 詐欺	4,744件（同10.6%増）
オ 暴力犯罪	3,974件（同1.6%減）
カ 殺人及び殺人未遂	297件（同4.8%減）
キ 重傷傷害	718件（同4.9%減）
ク 強盗	84件（同3.7%増）
ケ 強姦及び強姦未遂	85件（同32.8%増）

（２）邦人被害事案は報告されていません。

（３）2021年10月～12月における主な事件は以下のとおりです（当地の報道から作成）。

ア 10月22日報道。10月8日朝、モギリョフ州ボブルイスク市インテルナツィオナーリニ通りの路上へ20代男性が飛び出し、信号待ちをしていた2台の乗合タクシーに頭突きで損傷を与える事件が発生した。男性は、「乾燥テングタケを服用することで免疫が強化するとインターネット記事で読み、実際に確かめたかった。」と説明した。

イ 11月4日内務省発表。11月1日22:00頃、グロドノ州スモルゴンスキー地区警備局に、15歳の中学生女儿が帰宅するためバス停にいたところを不審者が襲いかかり、強姦行為を行ったとの通報があった。警察によるスモルゴンスキー地区での犯人の捜索が行われ、後日、オストロヴェツ市に向かう道中のソリ村に近い場所で、犯人がトラックから出てくる場所を逮捕された。犯人の男は、過去に暴行や窃盗、強盗などの前科があった。

ウ 11月5日内務省発表。ミンスク市在住の住人4名（19～30歳）が、電話詐欺による現金窃盗を行ったことが明らかになった。容疑者らは、少なくとも2件のソリゴルスク市住民に対する電話詐欺事件に関与していると思われる。被害は、3月に58歳女性から5,000ベラルーシルーブル、49歳男性から18,000ベラルーシルーブルだった。どちらの被害の場合も、銀行員を装って無料通話アプリ「Viber」で電話し、口座のアクセス権を入手、詐欺用のキャッシュカードへお金を転送し、そこから別の口座へ送金するという手口であった。

エ 11月11日報道。ミンスク市在住の資源ゴミとビン類の収集業者で勤務する容疑者（45歳男性）は、パルチザンスキー地区の一角の住民がゴミの分別に対し、なおざりな態度を取っていることに腹を立て、ゴミ収集用コンテナ15箱に放火をした。炎は、駐車してあった車両1台へも損傷を与えた。損害金額は6,700ベラルーシルーブルに上った。

オ 11月11日報道。ミンスク市在住の未成年女性が、売春のため友人たちを募集したとして逮捕された。2021年3月にこの17歳女性は、ベラルーシの出会い系サイトにプロフィールを掲載し、現金報酬をもらうため性的サービスの提供を開始した。5月には、性的サービスを行うため顧客へ派遣する代わりに、報酬の20%をもらうという話を友人5名（内、2名は未成年者）に持ちかけた。その後、15人以上の顧客に友人らを派遣した。17歳女性の行動は、刑法第2条171項「故意的な未成年者売春行為の組織及び利用」に当たる。

3 テロ・爆弾事件の発生状況

なし。

4 誘拐・脅迫事件の発生状況

なし。

5 日本企業の安全に関する諸問題

なし。

※上述の事案は全体の中の一部の情報です。定期的に報道などを確認し、自身の安全確保に努めてください。